

The Shimonoseki City University Public Relations

# 下関市立大学広報



海峡の英知。未来へ そして世界へ。

公立大学法人

## 下関市立大学

Shimonoseki City University

2009年7月1日 第58号

発行：下関市立大学広報委員会

〒751-8510 下関市大学町2-1-1

TEL. 083-252-0288

FAX. 083-252-8099

<http://www.shimonoseki-cu.ac.jp>

## 平成21年度 第48回入学式

桜の花がまだ咲き残る4月8日、第48回入学式が本学体育館で挙行された。学生歌「青潮ゆたかに」の斉唱、中尾友昭下関市長からの祝辞に続き、坂本学長から「他者を出し抜く競争力より、支え合い、補い合って新たな創造に向かう共創力を身につけてほしい」と祝辞が述べられた。

次いで、関谷博下関市議会議長（門出眞治同副議長代読）、吉川英俊後援会会長（長秀龍同会顧問代読）、柴田勝利同窓会会長、小野勇樹学友会会長から激励の言葉があり、来賓列席者紹介の後、学部新入生代表の清水涼美さん、学部留学生代表の全国花さん、交換留学生代表のポール・ネイザン・デ・ウィンター君、科目等履修生代表のペーターイ・タナサーンタダーさん、大学院新入生代表の郝瑛さんから、それぞれ誓いの言葉が述べられた。

続いて、吹奏楽部による演奏、応援団による応援歌・エールの披露が行われ、式典終了後には体育館前に待機していた在学生によって部活動・サークルの勧誘競争が繰り広げられたほか、毎年恒例のふく鍋もふるまわれた。また、入学式後に開催された保護者説明会には、今年も大勢の保護者が詰めかけた。

今年度の入学生は、学部学生が経済学科277名、国際商学科が269名の計546名（うち外国人留学生14名）、それに3年次編入学生が20名加わった。また、特別聴講学生としてクイーンズランド大学（オーストラリア）、東義大学校（韓国）、青島大学（中国）から計8名、科目等履修生としてタイ、トルコ、中国から計4名が1年間学ぶ。また、大学院には9名が入学した。



## 地域共創センター開設記念

### 下関市立大学・東義大学校国際学術交流シンポジウム

教授 道盛 誠一

2009年3月21日(土)に、海峡メッセ国際会議場で開催されました。本学の姉妹校である韓国・東義大学校との学術交流開始を告げるものです。本学の学術交流拠点であった産業文化研究所が開所50周年を迎えるにあたり、組織変えて新たに発足した地域共創センターの開設記念行事として行われました。

本格的な国際共同研究の開始を念頭においていますが、国際シンポジウムを重ねることによって共同研究のしっかりとした下地を創ろうという両学の強い意志に支えられています。

第1部では、まず釜山と下関がどのような場所性を備えているのかについて、それぞれ本学の坂本紘二学長と東義大学校の商経大学校・李鴻培講師による講演があり、さらに、それぞれの地域の発展戦略なり、都市売出しの戦略について、本学の吉津直樹教授と東義大の金玲謹准教授に講演していただきました。

これら4先生にコーディネーターである道盛誠一地域共創センター長が司会として加わり、第2部パネル討論を行ないました。朴奉斗商経大学校長や濱田英嗣本学研究所長のコメントもあり、釜山と下関、それぞれの特徴を確認できましたし、地域課題の捉え方の相違も気づきあうことができました。第1回らしくお互いによく知り合おう、を狙いとしたプログラムは大きな成果を挙げたといえます。この成果を踏まえて、今年度は、第2回目が釜山で開催されることとなります。両学による国際共同研究のテーマ候補も見えてくることでしょう。共同研究の開始時期についても模索が始まることとなります。



## 第44回卒業式



2009年3月25日、第44回卒業式が本学体育館において挙行された。経済学部経済学科184名（総代松嶋公敬さん）、同国際商学科224名（総代前田卓哉さん）に卒業証書・学位記が授与された。大学院経済学研究科ビジネスコミュニケーション専攻2名（総代王懐宇さん）に修士学位が授与された。坂本紘二学長の式辞に続き、江島潔（前）市長をはじめとする来賓各位から、卒業生への激励の思いもこめられた心温まるお祝いのご挨拶が述べられた。さらに、本学の学生論文集『赤馬』第31号に特に優れた論文を寄稿した甘楽遼士さん（経済学科）に「優秀赤馬賞」が贈呈された。卒業生からは代表として、卒業生総代・大藤愛美さん（経済学科）、留学生総代・金世熙さん（国際商学科）、大学院経済学研究科総代・頼正亮さんから出発（たびだち）のご挨拶が述べられた。最後に吹奏楽部による「ウィナーズ」の優美な演奏、応援団による力強いエールが卒業生におくられ、閉式となった。



## 2008年度現代GPフォーラムを開催

教授 土屋 敏夫

去る2月22日(日)下関グランドホテルで、「下関市立大学2008年度現代GPフォーラム『市大型の地域活動を考える～2008年度現代GPの取組を振り返って～』」を開催した。下関市立大学は文部科学省平成19年度現代GPの採択を受けて、「地域貢献を目的とした共創的学習プログラム～住民参加型『観光・

交流・まちづくり』の実践～」というテーマで取組を実施しており、2年目となる今年度は、本取組で実施・展開する教育プログラムの実質的な開始年度であった。本フォーラムでは、取組の中間報告という位置づけのもと、学生の代表がこれまでの取り組みの成果を報告することで、地域の方々を含めたディスカッションを通じて現代GPに対する様々な意見や評価を得ることを目的として開催した。

本フォーラムは、3部構成で実施された。第1部の「グループ別活動報告」では、現代GPの「環境」「観光・交流」「まちづくり」グループの取組状況の報告と質疑応答を行った。11件の取組報告があり、学生の主体的な取組による活発な活動が行われたことが伺えた。討論の中で、緑のカーテンに関する他組織の取組紹介や、「グリーン・ツーリズム、ブルー・ツーリズムにおける小中学生との交流活動ではコーン（CONE）リーダー事業との連携が可能ではないか」等の意見をいただいた。また、「本学の取組を是非継続してほしい」との要望もあり、取組代表者として大いに励みとなった。今後はこれらのご意見を踏まえながら、現場体験・参加型授業の充実と体系化を検討したいと考えている。

第2部の特別講演では、滋賀県立大学でフィールドワーク教育に携わって来られた倉茂先生に、本学の学生の取組について評価していただいた。最初に、第1部の学生の取組報告を題材に、「学生らしい発想の重要性」について、具体的な例を提示しつつお話しいただいた。次に、「プレゼンテーションは自らの考えを作る」という点について、ポイントを示しながら説明していただいた。経験をもとにした適切なアドバイスをいただき、学生にとっても大いに刺激になったと思われる。

第3部の全体報告では、各グループ2名ずつの発表で、今年度のチューター活動の報告と次年度の取組計画についてそれぞれ発表してもらった。チューター活動については、「カリキュラムの関係上全ての活動に参加することが難しい」「活動開始時点ではチューターの役割が明確でなかった」等の意見が出されたが、チューターや受講学生の反応は思った以上に良好であった。次年度以降もチューター制度を継続するとともに、カリキュラムの充実を図り、学生が参加しやすい環境を整えるなどの工夫が必要であると考えている。

このフォーラムを実施したことにより、地域社会との連携によって推進する本学のプログラムに対する理解を深めるとともに、実施内容の点検評価を行い、取り組むべき課題を明確にすることができた。今年度は、多くの学内外の関係者にご協力いただき、取組をまとめることができた。この成果を現代GPの取組最終年度である2009年度に活かしていきたいと考えている。



## 2009年度入学者選抜実施状況

		学科(定員)	志願者	受験者	合格者	入学者	実質倍率	
一般選抜	前期日程	経済学科(60)	297	280	86	69	3.3	
		国際商学科(60)	442	396	101	72	3.9	
	公立大学中期日程	経済学科(96)	1459	694	354	138	2.0	
		国際商学科(96)	1204	547	285	123	1.9	
推薦入学	全国推薦	経済学科(31)	79	79	32	32	2.5	
		国際商学科(31)	88	88	31	31	2.8	
	地域推薦	経済学科(33)	A	6	6	6	6	1.0
			B	39	39	27	27	1.4
		国際商学科(33)	A	9	9	9	9	1.0
			B	39	39	24	24	1.6
特別選抜	帰国子女	経済学科(2)	0	0	0	0	0	
		国際商学科(2)	1	1	1	1	1.0	
	社会人	経済学科(3)	0	0	0	0	0	
		国際商学科(3)	0	0	0	0	0	
	中国引揚	経済学科(若干名)	1	1	0	0	0	
		国際商学科(若干名)	1	1	1	0	1.0	
外国人留学生		経済学科(若干名)	21	21	11	5	1.9	
		国際商学科(若干名)	44	37	16	9	2.3	
編入学	経済学科(10)		35	30	9	8	3.3	
	国際商学科(10)		37	33	13	12	2.5	
大学院	経済社会システム専攻(5)		1	1	1	1	1.0	
	国際ビジネスコミュニケーション専攻(5)		14	13	8	8	1.6	

## 2009年度合格者出身校

北海道	旭川西
岩手	宮古
宮城	泉
福島	磐城桜が丘
富山	呉羽
石川	羽咋
福井	高志・羽水・三国2・大野・勝山・敦賀・武生東
岐阜	大垣北・海津明誠・多治見・恵那・中津・鶯谷
静岡	清水南・浜松市立・富士東・静岡学園
愛知	愛知教育大学附属・尾北・丹羽・津島・横須賀2・安城東2・岡崎西・豊野・愛知啓成
三重	四日市南2・上野
滋賀	八日市・水口東・河瀬・光泉2
京都府	嵯峨野・向陽・亀岡2・福知山・宮津・加悦谷・西宇治・菟道・南陽・京都成章4
大阪府	今宮・三国丘・金剛・八尾北・山田・開明3・履正社・上宮・常翔啓光学園・東海大学付属仰星・大阪桐蔭2・大阪学芸
兵庫	御影・柏原・明石西・小野・西脇5・三木・姫路東・姫路西3・龍野・赤穂・姫路商業2・豊岡2・浜坂・出石・相生・姫路2・加古川北・明石城西・宝塚北・伊川谷北・北摂三田・兵庫県立大学附属・三田祥雲館・三田学園・賢明女子学院・淳心学院・近畿大学附属豊岡2
奈良	奈良育英3
和歌山	向陽・星林・日高・田辺・和歌山信愛女子短期大学附属3
鳥取	鳥取東・鳥取西4・八頭2・倉吉東2・倉吉西2・米子東・米子西・境・鳥取中央育英2
島根	松江北・松江南9・大東2・三刀屋5・平田2・出雲7・大社2・大田・川本・浜田2・益田6・津和野・隠岐・松江市立女子・松江東3
岡山	岡山操山2・岡山大安寺2・岡山芳泉3・東岡山工業・倉敷青陵2・倉敷天城8・倉敷南・津山8・津山商業2・玉野3・玉島(県立)・笠岡・笠岡商業・西大寺2・井原4・総社3・高梁4・新見3・瀬戸7・矢掛・勝山2・林野・岡山一宮5・倉敷古城池4・玉野光南・総社南2・岡山城東3・就実2・岡山県作陽・岡山学芸館・清心女子・金光学園2・岡山2
広島	広島国泰寺3・海田・廿日市12・賀茂・安古市8・広・呉宮原6・呉三津田・尾道東3・尾道北5・三原6・世羅2・福山誠之館7・府中4・大門3・福山明王台・庄原格致・三次2・高陽3・安芸府中2・祇園北6・安佐北3・美鈴が丘2・広島7・広陵・広島新庄・広島文教女子大学附属・広島城北・広島なぎさ・武田・盈進・福山暁の星女子2・尾道・銀河学院・近畿大学附属東広島2

山口	岩国2・下松・徳山4・佐波・防府8・防府商業2・山口3・山口中央・宇部中央・宇部商業・小野田5・厚狭・田部3・西市・豊浦9・長府11・下関西・下関南5・下関中央工業・豊北2・大津・萩2・下関商業20・防府西・新南陽2・響2・西京4・華陵・下関中等教育5・高水3・誠英・宇部鴻城・慶進・早瀬4
徳島	城東・城北2・富岡西7・鳴門2・脇町・徳島市立2・城ノ内・徳島北・海部・徳島文理
香川	三本松2・高松東・高松商業・高瀬・観音寺第一3・高松第一6・高松西2・高松北・高松桜井3・三木2・英明2・香川県大手前4・香川誠陵5
愛媛	川之江2・三島・新居浜東・新居浜西5・西条5・今治西11・今治北2・松山東・松山南3・松山北6・松山商業2・八幡浜・宇和・野村・宇和島南・松山中央・宇和島南2・松山聖陵・済美4・済美平成
高知	高知追手前4・高知小津・高知学芸・土佐塾
福岡	育徳館・京都7・門司・小倉南3・小倉商業2・小倉・小倉西6・戸畑3・若松・若松商業2・八幡18・八幡中央2・八幡南3・東筑4・宗像6・新宮4・香椎2・福岡・福岡中央・城南・修猷館・筑紫中央・久留米・山門・三池・八女2・田川2・東鷹・嘉穂4・嘉穂東・鞍手9・直方・北筑6・小倉東5・中間・香住丘・青豊・ありあけ新世・門司大翔館・常磐・東筑紫学園・九州国際大学附属・近畿大学附属福岡・九州女子2・筑紫女学園・筑陽学園・東福岡・福岡工業大学附属城東11・祐誠2・八女学院・自由ヶ丘5
佐賀	唐津東・唐津西5・伊万里6・小城・鳥栖・神埼2・白石・唐津商業・龍谷6・東明館
長崎	長崎西・長崎南2・長崎北3・佐世保南4・佐世保北・佐世保西6・大村5・諫早2・島原・川棚・猶興館2・五島4・上五島・壱岐・対馬4・西陵5・海星・長崎南山・西海学園・向陽
熊本	済々黌2・第一2・第二5・熊本商業・荒尾・鹿本・宇土・人吉・天草・熊本北2・東稜5・秀岳館・熊本学園大学付属・熊本マリスト学園・文徳3
大分	杵築・別府鶴見丘3・大分舞鶴5・大分雄城台・大分鶴崎・臼杵6・佐伯鶴城8・竹田2・森・日田3・中津北・大分豊府7・宇佐・大分東明・岩田・日本文理大学附属
宮崎	高千穂・延岡・宮崎大宮4・宮崎南2・宮崎西2・日南・都城西・宮崎日本大学・鵬翔2・都城・日向学院
鹿児島	甲南・鹿児島中央8・鹿児島南・指宿2・枕崎・加世田・伊集院3・川内8・出水4・加治木4・志布志・鹿屋5・南大隅・大島・喜界・沖永良部・鹿児島玉龍5・武岡台5・鹿児島実業・樟南3・れいめい・出水中央・鹿児島第一2・尚志館・志学館高等部・鹿児島修学館
沖縄	首里・那覇国際
高等学校卒業程度認定試験3	
外国の学校等27	

## Association for Moral Educationに参加して

准教授 奥野 佐矢子

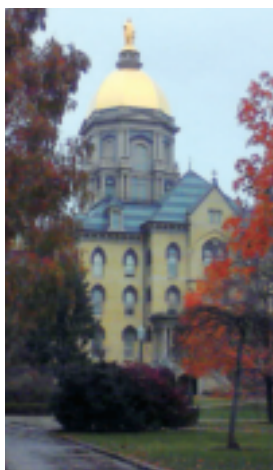
2008年11月、アメリカのノートルダム大学にて開催されたAssociation for Moral Education (以下AME) 第34回大会に参加した。

AMEは英米圏で最大規模の道徳教育学会である。学会大会自体は毎年開催されているものの、筆者が今回参加に至った決め手は次の2つである。まず大会開催地のノートルダム大学では、かつて筆者が留学中に師事したダルシア・ナルヴァエス教授が教鞭をとっておられること。また、同時期にアメリカでもとにも学んだ内藤俊史先生（お茶の水女子大）が、今回のAMEにて発表するご予約だったこと。筆者にとって今回の学会参加は、留学時代の旧交をあたため、今後の研究へと繋いでいく、そんな意味合いを含んでいた。

開催地であるサウスベンドは、シカゴからローカルの飛行機に乗り換え、1時間ほど南下したところにあるちいさな街だ。大学の他に何も無いそんな場所で、参加者の多くは、主催者が用意した学内ホテルに滞在し、各国から集まる研究仲間たちと朝食時から夕食時まで研究交流漬けの日々を過ごす。AMEでは、講演やセッション時だけでなく、休憩時、ランチタイムやディナータイムなど、日本の学会と較べてとにかく研究交流（という名のトークの時間）の機会が多い。その結果、3日間という会期ながら多くの出会いに恵まれた。

久々に会ったナルヴァエス先生は相変わらずお元気で、幹事のひとりとして学会大会を切り盛りしながら、ご自身も複数のシンポジウムやセッションで精力的に発表しておられた。また、内藤先生とも会期中ゆっくりとお話できた（筆者とは研究領域が異なり、普段は学会でもお会いすることがないので、この時間は貴重なのだ）。他にもオランダ、アメリカ、カナダ、ニュージーランド、イスラエルなど、さまざまな国の研究者らと食事やコーヒーをともにしながら夜遅くまで語り合った。

「道徳」とひとくちに言っても、価値に関わる教育実践のありようは国によっても文化によっても宗教によっても本当に様々である。日本の教育制度のなかにあってはつい忘れがちなこんな基本的な認識を、彼らとの交流の中で再確認させられる思いであった。



## 海外研修記

准教授 溝渕 彰

2008年4月から2009年3月まで、米国東海岸に位置するMassachusetts州Cambridge市にあるHarvard Law School（以下、HLSという）にて国外研修を行ってきました。Academicな雰囲気が漂うCambridgeの町で一年間研修を行うことは私の人生において大変貴重な体験となりました。

HLSの属するHarvard Universityは、当時牧師であったJohn Harvardによって1636年に創設されました。その後、同大学は発展を遂げ、現在では、Graduate School、Law School、Business School、Medical School、Divinity School等を抱える総合大学となりました。また、世界大学ランキングにおいて英国のUniversity of OxfordやUniversity of Cambridgeと一位、二位を争っていることはご案内のとおりです（今後、ランキングは変動するかもしれませんが）。

HLSは最寄駅のHarvard Square駅からは若干離れたところにあり、Cambridge Common（公園）のすぐ隣にキャンパスが位置していました。私を受け入れて下さったLucian Bebchuk教授は、Corporate GovernanceとCorporate Lawの権威であり、全米ナンバー1の呼び声の高いLaw Professorでした。Corporate Lawの分野では全米で論文の引用回数がダントツの一番であったことはそれを裏付けるものと言えるでしょう。

研修期間中に最も印象に残ったConferenceについてお話ししたいと思います。このConferenceはSloan Foundationという基金がスポンサーとなって行われたのですが、多くの有名な学者や実務家が参加しており、さながらDream TeamのようなConferenceでした。まず、HLSからはLucian Bebchuk教授、Allen Ferrell教授、Howell Jackson教授、Mark Ramseyer教授、Mark Roe教授、Robert Clark教授、John Coate教授が参加していました。また、HLS以外にも大手Law FirmのWachtell, Lipton, Rosen, & KatzのSteven Rosenblum氏、SECのDirectorであるErik Sirri氏、そしてColumbia Law Schoolからは、John Coffee Jr.教授等の著名な実務家・教授が参加していました。

Conferenceの後でReceptionがHarvard Square駅から程近いCharles Hotelで開催されました。Coate教授に誘われてこのReceptionに出席したのですが、私と共に円卓のテーブルを囲んだメンバーは著名人ばかりでさすがに緊張しました（写真中央左手の人物が私を受け入れて下さったLucian Bebchuk教授）。このReceptionは恐らく私の人生の中で最も思い出深い出来事となるでしょう。

最後になりましたが、このような研修の機会を与えて下さった下関市立大学に改めて御礼申し上げたいと思います。



## 私の研究

講師 中川 圭輔

私は本学では「韓国経済論」や「現代韓国社会論」など韓国に関する科目を担当しています。それゆえ市大生の皆さんは、私のことを経済学や社会学、あるいは韓国学研究のエキスパートだと思いでしょ。しかし、実は違います！

私の専攻は経営学で、「企業の社会的責任（CSR）」や「企業倫理（Business Ethics）」、「企業と社会（Business & Society）」などを研究テーマとしています。これらは学部4年時の卒業論文から継続していますので、かなり長い間お世話になっていることになります。奇しくも、昨今の日本では企業不祥事に関するニュースが連日のように報道されています。そのため、皆さんも一度はこれらの用語を見聞きしたことがあるのではないでしょ。か。

さて、私の研究ですが、大学院入学直後は東アジアの企業倫理を当面の研究テーマとし、日本、中国、韓国の3カ国を研究していました。しかし、「儒教的な韓国でなぜ不祥事が起こるのか？否、儒教だからこそ、不祥事は起こるのか？」といった疑問を持ち始め、「韓国の企業倫理」に絞って研究を進めることになりました。（私が本学で韓国関連科目を担当している理由がここで明らかになりましたね。）

これまでは、主として韓国の企業倫理の現状把握、韓国政財界の歴史の変遷、企業社会の形成過程、大学の企業倫理教育、韓国財閥の組織文化、財閥オーナーの倫理的意思決定などを研究してきました。さらに、より実情を知るため、各関連団体に対するインタビュー調査も実施してきました。

今後の研究の方向性は、韓国独自の特徴を描き出すことだと考えています。企業倫理や企業の社会的責任に関する研究は、欧米や日本のケースは盛んなのですが、韓国のそれは未だ発展段階にあり、現時点では欧米や日本での研究成果をそのまま韓国へ直輸入して議論しているに止まっています。そのため、今後は私の韓国研究の出発点となった儒教（朱子学）に焦点を当て、それと企業不祥事発生との関連を追究し、韓国的特色を明らかにすることが次なる研究課題です。



## 国際ワークショップ参加記

准教授 松本 義之

今回、東海大学・熊本キャンパスにおいて開催された International Symposium on Intelligent Informatics (ISII2008) に参加し、報告を行ってきました。その事について紹介したいと思います。

この国際シンポジウムは、2008年12月に日本知能情報ファジィ学会・IJICIC (International Journal of Innovative

Computing, Information and Control)・東海大学によって開催されました。また、日本知能情報ファジィ学会・九州支部の10周年を記念して開催された大会でもあります。このシンポジウムは、知識情報工学の分野において、新しい研究領域を提示し、様々な意見を交換して将来の研究方向を議論する目的で開催されました。

このシンポジウムには基調講演と一般セッションがあり、基調講演は、九州工業大学・教授の山川烈先生（ファジィシステム研究所副理事長）が「Identification of Epileptogenic Focus by Employing Softcomputing and Establishment of Minimally Invasive and Definitive Surgery」というタイトルで講演されました。山川先生はソフトコンピューティング分野での第一人者であり、今回の講演は医療分野（脳障害）におけるソフトコンピューティング応用の新たな可能性を示すもので、大変活発な議論が行われました。

私は一般セッションで「Knowledge Acquisition from Time Series Data through Rough Sets Analysis」というタイトルで報告を行いました。ラフ集合理論を用いて経済時系列データからの知識を獲得するという研究であり、他の研究者からラフ集合に関する理論的な質問、経済時系列データに適用する場合の問題点、知識ルール獲得の方法など、様々な質問・アドバイスがありました。また、ニューラルネットワーク・経営情報・ファジィ推論・知能情報などの多くのセッションで興味深い発表があり、研究を行う上で多くの刺激を受けることができました。

## 平成20年度 下関市立大学卒業論文合同報告会

平成20年度 卒業論文合同報告会実行委員会  
委員長 伊東 和樹

卒業論文を一般市民や下級生に向けて発表してもらい、その卒業論文に対して意見交換などをしてもらう発表会です。先生方の主導で行われてきた卒業論文合同報告会を学生自治で開催するようになって、6回目に当たります。経済に関する卒論が主ですが、毎年経済以外の分野の卒論が見られます。20年度は博多祇園山笠や現代GPにおける町おこしなど実体験に基づいた卒論もあり、市民に親しみやすい内容も多かったと思います。

2月21日(土)にA講義棟で行われた今回は、4ゼミから6報告がなされ、関野ゼミ（10報告）と川本ゼミ（15報告）の報告会も隣接教室で同時開催されました。参加者総数は約150人でした。意欲ある実行委員の獲得が難しいと考えてゼミ連絡系の集合体として実行委員会を組織したのですが、自分だけでこなせると甘く考えていた委員会業務も思うようにはこなせず、このような結果となってしまいました。お詫びしなければなりません。

なお、実行委員会は第2回から秋にゼミ・セッションを開催しています。2年生向けの合同ゼミ説明会です。ゼミ単位でブースを作り、現役ゼミ生である3・4年生にゼミを語ってもらうものです。20年度は、11月17日(月)～26日(金)の各昼休みに厚生会館4階で開催しました。参加ゼミ数は昨年度よりも14多い27ゼミでした。延べ200名の2年生が参加して、有意義なものになりました。今年度はゼミセッションの影響もあり、当委員会の存在感も高まっていると思います。後輩の皆さんの奮闘を祈念します。最後になりましたが、ご支援いただいた学長ならびに同窓会長、事務職員の皆さまにお礼を申し上げます。

## 退任挨拶

池田 清



下関市立大学では大変お世話になりました。この場をお借りして皆様にお礼申し上げます。私の専門は、都市論、地方財政論ですので、最近、注目されている創造都市をキーワードに「都市と大学」について市大で考えていたことを述べたいと思います。

創造都市の核心は、学術などの知識や文化、芸術の創造性を活かした新しい産業と都市の創造である。

創造都市の提唱者R.フロリダによれば、都市再生には創造的人材を受け入れる自由と寛容性が求められるという。世界の都市政策に大きな影響を与えた彼の「創造性指数」は3つのT、すなわち①Talent人材、②Technology技術、③Tolerance寛容、である。彼は寛容の指標として「ゲイ指数」をとりあげている。これは、ゲイの人々が住んでいても排除せず、受け入れる「寛容性」を含意している。つまり個人の自由や価値観が尊重され、意見の異なる人々と共生できる都市こそ創造都市といえる。この創造都市の中核に位置するのが大学で、大学こそ自由、寛容が求められるのであろう。現在、わが国の都市、特に地方都市は高齢化、人口減少、そして経済活力の低下など閉塞的状况を呈し、その打開策は容易ではない。それゆえ長期的視点にたって考えるべきであって、フロリダの知識、文化、芸術、そして大学と地域社会の自由、寛容性を重視した考え方は参考になるように思われる。つまり短期的視点にたった「効率性」や「管理主義」は効果がなく、むしろ閉塞を助長するものであろう。

## 大学院共同講義の市民開放の試み

教授 濱田 英嗣

大学院共同講義は、昨年の平成20年度から導入・実施され、今年度は更に一步前進させて一般市民の方々にも開放した。共同講義は通称名で、正式には「経済学総論」として2単位科目としてカリキュラム編成されている。大学院生は、より高度な専門的知識を習得するために、研究範囲が狭くなりがちなので、大学院入学時に、まず市立大学大学院の講義概要を30名弱の大学院担当教員が2専攻に分かれてリレー講義し、幅広く大学院レベルの経済学全体を学び、新入大学院生としての研究視野を広げる目的で開始した。

共同講義は、短期間、効率的に様々なジャンルの研究課題が何であるかが理解できるが、大学院生によるレポートによれば、専門領域が違うリレー講義にも関わらず、受講後に現代の日本の社会・経済の共通した問題点が図らずも浮かんでくるという。このような事柄が判明したので、平成21年度からは一般市民にも開放し、大学院としての地域貢献活動を同時に行ったというのが今年度に至る経緯である。本年度は4/10～4/17、

上記の時間帯に大学院講義室で実施され、16:30～21:20という夜間の講義時間にもかかわらず、多数の熱心な市民聴講があった。次年度も同様の時期に開講される予定なので、自分の学力を確認したい学生にも聴講を勧めます。

## 各講義の内容

### 国際ビジネスコミュニケーションコース

- 第1回 「大学院で学ぶにあたって」 研究科長 濱田 英嗣
- 第2回 「中国近代政治史」 金子 肇
- 第3回 「労務管理」 山本 興治
- 第4回 「中国の経済発展」 飯塚 靖
- 第5回 「アメリカの金融政策」 西戸 隆義
- 第6回 「西洋思想」 西田 雅弘
- 第7回 「経営管理」 平池 久義
- 第8回 「コミュニケーション概論」 伊藤 恵美子
- 第9回 「東南アジアの脱植民地」 鈴木 陽一
- 第10回 「原価計算の理論と技法」 島田 美智子
- 第11回 「ワークストレスの心理学」 横山 博司
- 第12回 「経営情報システム」 松本 義之
- 第13回 「ビジネスリスク・マネジメント」 森 幸弘
- 第14回 「プロジェクトマネジメント」 藪内 賢之
- 第15回 「日朝関係史」 木村 健二

### 経済社会システムコース

- 第1回 「大学院で学ぶにあたって」 研究科長 濱田 英嗣
- 第2回 「経済地理」 吉津 直樹
- 第3回 「資本蓄積論」 関野 秀明
- 第4回 「環境マネジメント」 有吉 範敏
- 第5回 「統計的データ解析・統計教育」 大内 俊二
- 第6回 「産業組織論」 佐藤 隆
- 第7回 「日本貨幣流通史」 櫻木 晋一
- 第8回 「離島研究」 平岡 昭利
- 第9回 「地域社会学」 加来 和典
- 第10回 「農村社会論」 叶堂 隆三
- 第11回 「品質の経済的価値」 森 邦恵
- 第12回 「金融経済」 道盛 誠一
- 第13回 「地方自治法」 太田 周二郎
- 第14回 「経済変動論」 素川 博司
- 第15回 「経済学の生成をめぐって」 米田 昇平

## 教員著作目録 (2008年4月～2009年3月)

- 浅野 雅樹：(共著)『ILCビジネス中国語テスト教本』、ILC国際語学センター、2008.5
- 飯塚 靖：(共著)岡部牧夫編『南満洲鉄道会社の研究』、日本経済評論社、2008.10
- Sullivan, Kristen：(共著)『Impact Conversation 1』 Pearson Longman Asia ELT、2009.3  
(共著)『Impact Conversation 2』 Pearson Longman Asia ELT、2009.3
- 平岡 昭利：(編著)『地図で読み解く 日本の地域変貌』、海青社、2008.11

## 新任教員挨拶

### 教授 高田 実



今年度から「世界経済史」を担当することになった高田実です。出身は福岡県大牟田市、旧産炭地「三池」です。最近、熊谷博子監督の映画『三池—終わらない炭鉱の物語』が話題になりましたが、まさにあの炭住で育ち、「がんばろう」と「炭掘る仲間」が子守唄でした。炭住街では、労働者が、貧しいながらもお互いを助け合う生活セーフティネットを作っていました。米や醤油がなくなれば提供しあい、頂き物は必ずみんなと分け合いました。また、子育ても共同の力に支えられていました。わが子も隣の子も分け隔てなく叱り、お乳も近所の子供たちと「共有」するほどでした。夜勤に備え父親が寝ている家庭の子供が学校から帰ると、睡眠を妨げないようにと、隣の家で遊び食事をしていたのです。

そのような経験から、労働者の相互扶助の歴史に関心があります。どこから、どのようにして、このような共同性が生まれ、それはどのように受け継がれ、変化してきたのか、近現代のイギリス社会を対象にして研究しています。

経済は、底辺ではこのような非市場的な共同性の力によって支えられてきました。グローバルな市場主義の展開が各地に膨大な貧困を蓄積するなかで、地域社会の共同性と活力を回復するために、われわれは何をなすべきか。下関の地に根差しつつ、イギリス社会と時空間を超えた対話を行うことで、この問題を考えてみたい。人は他者という鏡なしには自己を認識できないし、誰も「来し方」を振り返ることなく「行く末」を見通すことはできないからです。

みなさんとの対話を楽しみにしています。

### 准教授 中川 真太郎



4月より本学に赴任いたしました中川真太郎です。経済政策論と公共経済学の講義を担当しております。公共経済学とは、公的部門の経済活動を経済学の視点から理論的、実証的に分析する学問です。

百年に一度の経済危機とも言われる中で、現実には問題意識を持ちつつ、理論にもとづいて基本をおさえた講義をおこなっていきたくと考えております。

専門は、公共経済学のテーマの1つである公共財の研究です。公共財とは、その便益を誰もが競合することなく享受できる財です。公共財の概念が扱える主題は幅広く、地域のボランティア活動から、国連など国際的な安全保障の枠組みや、地球環境問題にまで及びます。しかし、誰もが便益を享受できるという性質から、公共財を誰が供給するのか、その費用を誰が負担するのかといったことが常に問題となります。私は、公共財の供

給を政府に頼れない場合に、どうすれば公共財を適切に供給できるのかという問題を研究しております。

私自身は、三重県の出身で大学からは京都に住んでおりました。下関は初めての土地ですが、古くからの交通の要衝であり、国際交流も盛んなこの土地で、広い視野をもって教育・研究に取り組んで参りたいと存じます。

どうぞよろしく願いいたします。

### 特任教員 高 路明



你们好！

今年3月30日付けで北京大学から参りました高路明です。これから一年間市大の特任教員として中国語の授業を担当させていただくことになりました。

私は北京大学中国語学部の教授で、研究分野は古典文献です。それを分かりやすく説明すると、中国古代の典籍をまとめて整理・研究するという学問です。昔のものを現在に役立たせ、古いものの良さ及び中国の伝統文化の精華を現代社会に生かすのがこの研究の目的です。

これから皆さんと一緒に中国語の勉強をすると同時に中国の古代の伝統文化も紹介したいと思えます。

どうぞよろしく願いします。

### 特任教員 竇 文



大家好！

4月1日に中国青島大学から派遣された竇文と申します。これから一年間特任教員として中国語の授業を担当させていただくことになりました。

下関市と下関市立大学は私にとって忘れがたい美しい思い出の存在です。と言いますのは、私は、青島大学から下関市立大学に派遣された最初の中国語講師で、1991年に下関に来たことがあるのです。当時は生まれて初めての海外体験でちょっと不安がありましたが、大学の先生・職員の方々から一般市民の方々まで大変親切にいただき、そのお陰で不安はすっかり晴れ、楽しく充実した毎日をおくることが出来ました。18年ぶりにもう一度下関市立大学に来られたのはたぶん「縁」があるからでしょう。

青島大学では主に日本語教育に携わっていますが、外国人留学生、特に日本人留学生や日本人の中国語学習者を対象に中国語を教える仕事も兼ねてきました。そのため研究分野は日本語学から対外漢語教育にもわたるようになりました。欲張りと言われるかもしれませんが(笑)、本当に日々の授業を通して日本語と中国語の言葉の表現に現れた相違や共通性に心引かれています。言語教育において学習者にとって学びやすい方法を探るのが、私のこれからの研究目標の一つです。ぜひ皆さんと一緒に討論して行きたいと思っています。

どうぞよろしく願いいたします。

## 21年度予算

(単位：百万円)

	区 分	金 額
収入	運 営 費 交 付 金	182
	授 業 料 等	1,033
	入 学 金	123
	入 学 検 定 料 等	58
	事 業 収 入 等	25
	寄 附 金	4
	補 助 金	7
	計	1,432
支出	一 般 管 理 費	167
	人 件 費	1,051
	教 育 経 費	121
	研 究 経 費	48
	教育支援経費(図書館)	38
	補 助 金	7
	計	1,432

## 2009年度年間行事予定

- 4月 8日 (火) 入学式
- 4月13日 (月) 春学期授業開始
- 5月 1日 (金) 日商簿記3級受験対策講座 (～6月12日)
- 5月20日 (水) 第1回就職ガイダンス
- 5月30日 (土) 後援会総会
- 6月 1日 (月) 公務員受験対策講座 (～3月20日)
- 6月24日 (水) 日商簿記2級受験対策講座 (～11月14日)
- 6月26日 (金) R-CAP 解説会
- 6月27日 (土) 英語弁論大会
- 7月 3日 (金) 「世界の厨房から」開催
- 7月11日 (土) オープンキャンパス
- 7月23日 (木) 第2回就職ガイダンス
- 7月25日 (土) オープンキャンパス
- 7月26日 (日) 事務職員採用試験
- 7月31日 (金) 春学期定期試験 (～8月10日)
- 9月12日 (土) 大学院入学試験
- 9月25日 (金) 民間企業筆記対策講座開講
- 9月28日 (月) 秋学期授業開始
- 9月30日 (水) 春学期卒業式
- 10月23日 (金) 大学祭 (～26日)
- 11月 2日 (月) 第3回就職ガイダンス
- 11月13日 (金) リクルートメイクアップ講座  
リクルートスーツ着こなし講座
- 11月21日 (土) 推薦入学試験日
- 12月16日 (水) コリアンススピーチコンテスト
- 12月25日 (金) 冬季休業 (～1月6日)
- 12月29日 (火) 中国語弁論大会
- 1月13日 (水) 第4回就職ガイダンス
- 1月17日 (土) センター試験 (～18日)
- 1月23日 (土) 留学生入学試験
- 2月 3日 (水) 秋学期定期試験 (～12日)
- 2月 中旬 2009年度現代GPシンポジウム
- 2月25日 (木) 一般選抜試験 (前期)
- 3月 8日 (月) 一般選抜試験 (中期)
- 3月13日 (土) 大学院入学試験2次
- 3月25日 (木) 卒業式

# 大学を体験しよう!!

## 下関市立大オープンキャンパス2009

### 【開催日時】

- 7月11日 (土) 13:00～15:30  
(受付11:30～随時)
- 7月25日 (土) 9:30～12:00  
13:00～15:30  
(受付 9:00～随時)

### 【全体説明】 B 講義棟 233 教室

- 大 学 紹 介：本学の特徴などを紹介します。
- 入 試 説 明：今年度入試の概況、来年度入試の概要を説明します。
- 就 職 状 況：就職状況やサポート体制を解説します。

### 【模擬講義】 B 講義棟 233・223 教室

- 本学の教員が、高校生の皆さんにも分かりやすく講義します。
- 11日  
経 済 学 科：道盛誠一教授「経済学ってむずかしそう?!」  
国際商学科：溝渕彰准教授「金融危機と法規制」
- 25日  
経 済 学 科：中川真太郎准教授「不況と経済政策」  
国際商学科：川野祐二准教授「公共マネジメント論入門」

### 【模擬海外研修】

- 海外の研修先の紹介などを行います。
- 英語圏コース・相原信彦教授 (134 教室)
- 中国コース・武井満幹講師 (135 教室)
- 韓国コース・白川春子准教授 (121 教室)

### 【個別相談】 多目的ホール

- 個別ブースにて、入試や大学生活、就職などに答えます。

### 【市大生と語ろう】 厚生会館

- サークル活動や勉強のことなど、在学生の生の声が聞けます。

### 【学内施設ツアー】

- 在校生とおしゃべりをしながら、校内を散策しましょう。

### 【学食体験ランチタイム】

- 学生食堂でランチを味わえます (無料)。

### 【図書館ツアー】

- 専門職員が、日頃は目にすることのない閉架書庫にもご案内します。

### 【コンピュータ体験】

- コンピュータ実習室を開放します。

### 【送迎バス運行】

- JR新下関駅 (東口)・幡生駅から無料送迎バスが出ます。